

時間割コード	G2B40310	開講年度	2026				
授業題目	古典文学の恋愛裏事情【EA】				担当教員	西 一夫	
英文授業名	Reading of Classic Japanese						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生	全
講義室				授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当
備考							
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	大学D P				⇔	日本の文学作品、なかでも古典領域の作品を概観することを通して人間の本質的感情である恋情についての不易流行を理解し、自らの言語感覚を豊かにしながら、日本文学に関する基礎的な学力を身に付けることができる。	
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力						
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	代表的な古典作品を中心に1～2回で取り上げる。それぞれの授業では以下に示すような事柄が意識され、全授業を通して達成されることが肝要である。 ①恋愛という観点から古典作品を捉え、古代から現代は連続するものであり、そこに生きる人間の思考は、表現手法こそ異なるけれども、基本的には不易である事実を受け止め、理解できる。古典作品を読む際には従来の解釈・文法至上主義などにとらわれず、表現の眼目となる部分を取り上げて丁寧に読む。 ②授業の目的を達成するために、受講生には次のような観点が求められる。 a：日本文化の連続性 b：恋愛に対する素直な思考 c：古典文学に対する嫌悪感の排除 d：各自が抱く恋愛感情について考えること e：他者と意見交換して考えを深めるコミュニケーションの力 f：共同で話し合いをする力・話題をまとめる力 ③作品を「読み」「触れ」「視る」ことを通して、対象を多角的に捉える力をはぐくむ このように対象を捉える力を、各自の専門領域で応用的に活用できる						
(5)授業のキーワード	古典文学・恋愛・不易流行						
(6)授業計画	№1. ガイダンス №2. まずは想像・妄想・幻想—J-POPの歌詞を読む— №3. 神様はさすが……—『古事記』『日本書紀』の世界— №4. 戀情は巧に表現すべし—万葉・古今の恋歌— №5. プレイボーイ業平—『伊勢物語』の恋事情— (第1回課題レポート[次々週までに提出]) №6. 「見る者」と「見られる者」—「垣間見」での恋愛事情— №7. 日本にもいたシンデレラ姫……—『落窪物語』の恋情— №8. 華麗なる恋愛?—光源氏だって人間なんだ!— №9. 人生は繰り返す……人妻に手を触れてはならぬ— №10. 滅び行く兵者の情愛—往生の物語・平家— (第2回課題レポート[次々週までに提出]) №11. 庶民は開放的—説話集の恋愛事情— №12. 歌謡の艶なる世界—川柳・俗謡— №13. 「現代若者恋愛短歌」を読む—戀の「思ひ」は不変— №14. 恋は盲目—『好色五人女』のお七— №15. 古典文学と現代の恋愛事情—言葉の豊かさを獲得するために— (最終課題レポート[提出期限は別途指示])						
(7)成績評価の方法	1. 授業内容を踏まえて作品理解と問題意識ならびに論理的思考力をはかるための課題レポート(20点・2回) 2. 取り上げてきた作品や提出されたレポートに基づく最終課題レポート(30点) 3. 授業終了時に授業内容や各自の質問・疑問・授業への要望や苦情・改善点等を記述する振り返り活動(2点・15回)						
(8)成績評価の基準	秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。						
(9)事前事後学習の内容	事前学習：次回授業で取り上げる作品を事前に読み、内容を理解して課題を設定する。 事後学習：取り上げた作品の内容を振り返り、解釈で問題・疑問となった表現について再吟味する。						

(10)履修上の注意	成績評価の対象となる2回の課題レポートと最終課題レポートは、単なる授業の受講印象記のような内容ではなく、(4)にも明記したように、作品の理解や、そこから抽出される問題点などを具体的課題として取り上げていることが肝要である。また論述も論理性と柔軟な思考力さらには創造力があきらかになるような手法が求められる。その際、【参照書】6・7などは参照されるべき書物である。
(11)質問,相談への対応	原則的に授業時に直接おこなうのが望ましい。また授業後にも随時相談に応じます。個人的な相談・質問の場合はメール(アドレス:nishika@shinshu-u.ac.jp)あるいは電話(238-4072西長野キャンパス)。 また、オフィスアワーを利用してもよい(長野[教育]キャンパスのM館408研究室)。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 なお、教育学部国語教育コース学生は学生生活や学修方法などの大学生生活全般の相談にも随時乗ります。
(12)授業への出席	完全Onlineでの開講授業である。そのため受講生の反応が把握しにくい。そのため課題テーマに即した内容でのグループでの話し合い等を行う。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	規定に拠り出席が適わない場合には、個別に対応する。
【教科書】	特定の指定はない。毎時プリントで配布。 その他、映像資料・音楽資料や古写本等を補助教材として用いる予定。 e-A L P Sを利用する。授業前日夜には更新情報を確認する事が大切である。
【参考書】	(主要な書籍のみ掲げる) 1. 林望, 恋の歌・恋の物語―日本古典を読む楽しみ―, 初版, 4-00-500398-2, 岩波ジュニア新書, 2002年, 919円 2. 田中貴子・田中圭一, セクシィ古文, 初版, 978-4-8401-3436-1, メディアファクトリー新書, 2010年, 720円 3. 林望, 古典文学の世界, 初版, 978-4-334-74788-6, 光文社文庫, 2010年, 514円 4. 大塚ひかり, 快楽でよみとく古典文学, 初版, 978-4-09-825097-4, 小学館101文庫, 2010年, 700円 5. 西鶴研究会, 西鶴が語る江戸のラブストーリー, 初版, 4-8315-1139-0, ペリカン社, 2006年, 1900円 6. 本多勝一, 日本語の作文技術, 初版, 4-02-260808-0, 朝日文庫, 1991年, 430円 7. 本多勝一, 実戦・日本語の作文技術, 初版, 4-02-261053-0, 朝日文庫, 1994年, 560円 その他随時、授業時に紹介。なお、1・3・4はオススメ!